

C 1

1910年代には随分多くの芸術家、画家たちが仏教図像の観音様とキリスト教の聖母を結び付けようとしていた。堂本印象にもそういうものがあるし、荒井寛方には1941年に「観音マリア」という双方を合わせた作品があり、これは絵画でキリスト教と仏教を合わせることにより、戦争が始まりそうな時代に対して明らかに一種の警告を発していたものと考えられる。しかしその後、本発表にも「南溟」という言葉がでてきたが、例えば横山大観が、日本の南方も含めた海外への進出をうたうも、敗戦の色濃い時代に書いた作品の題名であったりすると、そうした背景も含められていると鑑みられる。

また、教義的なことを言い出すと大変で、若桑みどり氏は晩年、博士論文で一つの新しい名をつけたが、そこには、どちらの教義に乗ったとか、本地垂迹で逆だという話を超えて、新しい聖母像というのがここから生まれてくるのではないかなという彼女の期待が込められた表現であったと思う。しかしそれは混交とは別物かという点においてはまた別で、台湾の場合は明らかに混交しているものもあり、それは宗教というものの営みの豊かさを見せてくれるものである。その中で戦争の体験がこういう動きの核にあったというところを抑えている点は、大変面白い。ただ日本の場合、興亜観音というものもあり、それにはある意味で忌まわしい歴史の後ろにつきまどっている光と影の部分、その双方を踏まえる必要がある。

C 2

慰霊の担い手として仏教が選ばれるということは、やはり何かその地域の宗教観というものが反映しているのではないかと感じる。韓国の場合は、戦争犠牲者慰霊というのは植民地支配に対する慰霊、則贖罪だということになり、例えば日本の仏教寺院が韓国で慰霊をするような運動を行って失敗したという例もある。その背景には、仏教は植民地時代、日本に協力した悪い宗教勢力であるというイメージが強く、そのため韓国ではなかなかこういった場に仏教が異例のページェントとして働くのは難しい。逆に、サイパンの場合は仏教に対する特定のイメージがないため、そういうところが仏教が和解のための使者となり得た社会的な条件だったのかとも思えるが、今日の報告を通じて、社会ごとの宗教観というものもさらに見通せるような方向があるのかもしれないと感じた。

Q 1

死者をどう慰霊するかという過去の記憶の引き受け方と、それを未来にどう継いでいくか、これは大変な問題であるが、これから先どんな具合にマリア観音が広がっていくと期待するか。

A 1

マリア観音を通じて現地の人への支援の輪が広がることを期待すると共に、観音像というものを扱うことにより、ある意味顕彰という部分ではない死者に対する慰霊ということを検証していくことができるのではないかと考えている。

Q 2

研究者とは観察する立場にいるが、それは地域社会に研究者として関与することでもある。この点、これから行っていくにあたり期待があれば教えてほしい。

A 2

美術史という枠組みにとらわれず、仏像というものが社会の中でどういう役割を果たしていったのか研究していきたい。

Q 3

今回の調査における、インフォーマットはどのような人であるのか。

A 3

その地域の方々である。慰霊祭に参加されている方及び現地在住の日本人の方も多くいたが、ふらっと訪れてくるような現地の方々や周辺に住んでいるという方から話をうかがった。

Q 4

マリア観音を信仰している人たちがどこに住んでいるか、あるいはどのような人か、分布などを教えてほしい。先ほど述べられたようにベトナム人や中国人か。

A 4

チャロモでは現地の人のほか、ベトナム人とか中国人とかが来るという話を聞いた。

Q 5

マリア観音信仰は、戦争経験者と非戦争経験者ではどのように扱われるのか。

A 5

グアムとサイパンでは状況が違うが、グアムは母体にあるのは観光という問題である一方、サイパンは民間の方が亡くなっているということもあり、それに対する同情がある。ただマリア観音の信仰に関しては、マリア観音というものが祀られることによって、敵味方全てを一緒に慰霊しようというシンボルになっているのではないかと考える。

Q 6

国内でも沖縄、広島、長崎、特に長崎などキリスト教が強いところで見られるのかなと感じたが、マリア観音のようなものは他にどこにあるのか。

A 6

マリア観音という名称で呼ばれているものは国内ではあまりないが、例えば戦没者慰霊のためにつくられた東京湾観音の中に、マリア観音という名称でほぼマリア像の形をしたものが祀られている。また、京都の天龍寺に悲運観音といって、もともと特攻隊の遺族の方が発願したもので、手に十字架を持った観音像が祀られており、それは敵味方なく全ての戦没者を慰霊するためにと考えられているものである。観音自体ではなく、観音と横に十字架を立てるといったようなケースはもう少しあるかと思う。